

亞國飛行機ブエノスアイレス號は十一日無事ブエノスに到着してニューヨーク・ブエノス間の大飛行に成功した、所用日數十九日。

●伊國の九時間労働制
イタリー政府は新たに労働法令を発し、全國の労働時間を總べて九時間に限定した（ローマ）
●ロシアに反革命か
ロシアに反革命起りジイノビエフ氏は反徒に襲撃されて負傷したとの圖説があるが、露國政府はこれを否定したる
(モスコ一)
●コレラ病猖獗
疫病の一大病害であるコレラがヨーロッパに蔓延する

●バルカンの雲行怪し
ブルガリヤとユーゴスラビアとの國交緊張し、兩國とも國境に軍隊を集中してゐる、又トルコは莫大な軍器をドイツの兵器會社に註文した

▼最近電報

墨宗教問題

あつたがナ▲ごころがジヤカ

經濟的ゴーベルタ

日本人諸君

これが出来なくなつたので今更に
三千七百ノートル延
する事に定まつた、總經費十
八千コントで、これが出来上
と長さ實に七千五百メートル
いふ南米第一のすばらしい港
なる

墨宗教問題と伯國長新宗教法実施の結果カトリックの方教徒の反感を買ひ新舊兩教の大騷亂を引起し漸次内亂化しつゝあるメキシコの宗教問題にブルジルが關係するのは同政との國交上面白くないので、大統領ア

あつたゲナ▲どころがジヤカ
中々甲羅がコワく脊負つて來な
人 惣だけ喰はれカスリ傷一つ負は
なんださ

Hotel Paysandú
御一泊
十五銓以上
郵便局の近く
でルス驛まで
五分間
英佛語話す

故淀原憲二君
建碑寄附芳名回五
金參拾鉢
金拾五鉢
古關富彌
西郷隆治
中山吾壽
間崎三三一
中山忠太郎
八拾鉢
小計
拾 鉢
合計ニコントス四鉢レースヌ

A black and white photograph of a vintage wooden safe or cabinet. The front door features a large rectangular panel with a decorative emblem in the center, flanked by two smaller circular panels. The safe has multiple drawers and compartments on the left side. It is positioned on a dark, textured surface.

The National City Bank of New York

(Fundada em 1812)

いふ奴は面白いもので一度これ、
預金にするごと夜も晝も日曜も祭
日を稼いで決してくたびれません。
年四分の利子で六ヶ月切替です
本送金は特に御便宜を取計らひま
ねず用の爲替相場は出来るだけ
ます、日伯社を経て御申込なされ
ばより差支ありません

Loja da China

LOUREIRO COSTA & CO.
Rua S. Bento 85A Caixa 676
S. Paulo

尋人廣告
東市府 田淵 静雄
全 山岡 鶴松
交すべき書信あるに付現
所御通知あり候し
在サンバウロ

カツビンローデス、カチングクローラー、シヨウモウ、エレフターロー、アンテ、裸麥、小麥、セバーダ、其他内外果樹苗木いろいろ揃ります

←→ Prof. Bruno Lobo
Japonezes →
No Japão e o Brasil
←→
日本及 ブラジル に於ける日本人
皆さん、この書を是非一冊お求めなさい
|| ブラジル語を讀める方も
|| 読めない方も
読める方はブラジル人がどう日本を見
るかを知る爲に、讀めない方は眞面目に
人を理解し辯護する此書によ、周圍の外
し、正當に日本人を理解させむ爲に、又
を知己の外人讀ませる爲め進物として
なさるは更に妙である(ませう)
定價一部金十ミル(送料共)
取次所
日伯社

ルに於ける日本人
一冊お求めなさい
ゆる方も
が讀めない方も
がどうも眞面目を見
ない方は眞面目を見
書によつて周圍の外
解さゞく爲に、又
も爲め進物として
ませう

金といふのは面白いもので一度これを定期預金にすると夜も晝も日曜日も祭日も利子を稼いで決してまたびれません、當行は年四分の利子で六ヶ月切替です

Pó Caffaro

にはカフアロ粉を御使用になれば一切の病害を防ぐことが出来ます、本品は硫酸銅よりもかく有効で別に石灰を混ぜることなく直ぐ使へる様に出来て最も經濟的です、従つてヨセ・ビチヨロ其他の日本人諸君は皆本品を使用して好成績を得てをります、

Rua Conceição 3-E **LUIGI MELAI** Caixa 2933 S. PAULO

養蚕家

(一) 小野氏を訪ぶ

三町ばかりを引返して右側に鉛筆

草を書かして綴を送りました。七千歳以上の高齢者十数名連音

となるから平均年五ヶ月ト以

被服

一人當一五〇針

六〇〇

福岡縣

香川縣

山口縣

全ヨマスニ

花岡與三衛

全マスニ

松原フデ子

小柳カヨ

全仁應

東江盛研

安慶名幸保

仲宗根喜作

松原良賀

宇根秀

新里紹慶

仲尾市五郎

吳屋オト

安谷屋忠亀

宮里勇吉

大城勝助

興那清元

新里紹慶

上原

佐藤喜作

三井仁應

大正四年及び六年に之を薦し

した所のあつたといふ。其後

かやうに農事の改良に、或は

農村の改善に一身を捧げたので

て老人を慰めた。

必要がないのですよ」

「そんなにして蚕糸も出ないで

つ殘らす食ひつくから豚糞の

温床が低く蚕糸の運動も緩慢だ

しまつておるので、桑葉など

は温床が低く蚕糸の運動も緩慢だ

は温床が低く蚕糸の運動も緩慢だ</div

投手の釋明

私は、一運動家として否一野球投手としての立場から渡邊孝君及び渡邊君の會話を信してゐる人たちに對しての釋明を書き記す前に、何故に釋明の要を感じたかが故に題言が示す不穩にも思はれるやうな字句を弄するに至つたかの事の真相を、題言を書き讀んで奇異を感じられる人々のために略記の必要を生じました。

ミカド對本社の第二回練習球戦（七月二十五日）の確か五回戦の時、福田君（捕手）の暗號に従つて打者（渡邊君）の肩口から外角に割れ出るアウドロを全力をこめて繰り出した時、指のコントロールを誤つた爲めに曲る等のカーブが直球に近い球道を取つて、不幸全君の背中に強く當つてしまひました。私はハツとして急いで投手板を離れて丁寧に謝罪しました。たしか福田君も遺憾の意を表明してゐたやうです。ところが渡邊君はいきなりバットを私に向つて投げつけ「高野はヒドイ奴だ、福岡と相談しておれに球を投げつけた、馬鹿にしてる」とやがつた、馬鹿にしてる」と云つた際に對し今度は「おれ運動家としてつしまなければならぬ言動を敢えてされたばかりでなく、他の野手が「一言も申しません、且つ君がミカドの秘事ども我々運動を愛好する青年君は色をなして退場されてしまひました。

私はその下手人として改めて渡邊君に對し、私の未熟な腕を不注意から起つた過ちをお詫び申します、且つ君がミカドの秘事ども我々運動を愛好する青年達の先輩として、熱心な指導を

スペインの無政府主義者が首領の暗殺をやり損ね、日本でも銀座通りの商店をおもちゃして得をとしてゐる、無政府主義とは暗殺と破壊をやけくそな商買テンをしてしまふ事

◆ フランスの政界は猫の目玉の様にグルグル廻る、フランは慘落して二百レースにもならぬ、金儲けのしたい者は今の中にフランをしてしまふ事

◆ 日本では今年起つた小作争議の件数が既に五百八十餘件に上つてゐる、地主と小作人の争闘は益々真剣になるばかり。二三万圓の金を持つて歸つて地主様にならうなど夢想はぬ事

◆ 富山県高岡市では樓主が自發的に娼妓を開放した、長崎市では警察が貸座敷業者の營業を禁止して娼妓を放してやつた。自由廢業するもの各所に續出の有様、公娼制度崩壊の前提か

◆ 不景氣のために仲買商人達に不當利益をせしめられる事を痛切に感じる植民者が多い、恐らくに教へられた尊い獲物だ、此由廢業するもの各所に續出の有様、公娼制度崩壊の前提か

◆ 英國の炭礦争議已に二ヶ月餘りに亘る。そのため労働者中には餓死する者も生じた、それでもうとする將軍達と漁夫の利を占めやうとする米國、國亂れて忠臣の出ざるもの、東に支那、西にメキシコ

Rua Senador Feijo No.21-A São Paulo | 支店 Av. R. Pestana 326 | 座ーステアビシルテヨルシ
 Missão Japoneza do Brasil | L. Silva & Siqueira Ltd. | Rua Libero Badaró 73 São Paulo
 聖州義塾 | 鐵工場 | 農業
 土木技術 | 各種自動車修繕
 工事請負並設 | 並に附屬品製作
 其他土木に關する一切 | 廉價に御用に應じ升
 の御求めに應じ申し候 | 竹内金市
 土木技術 | 上原商店 | 種蟲劑
 聖州義塾 | 食料品及雜貨販賣 | 種蟲
 土木技術 | 電話二〇〇八 | 殺蟲劑
 小林美登利 | 電話グラス二二二三 | 種蟲
 北西銀アロミツソン | 電話二二二七
 郵函一九八 | 電話二二二七
 サンパウロ市 | サントスラゴーデ、サン
 サンパウロ正ノ | パウロセッタントブロ、土木
 サンパウロ正ノ | 電話二二二三
 大人集會午後四時 | 電話二二二三
 (Circa 12 São Paulo)

目録がついたから。これからその方の事業に取かうらうと思つてゐること、

香川縣三豐郡大野原村字瀬波は純然たる共産部落で大年十二年、物内四月部落民家二十四戸で同領出産賃の下に小作田十四町六段を購入し篠原與之助を幹事長として、男三十五人女二十五人、子供を除くで協同經營し、その純益を年々配當して居る。その俸給として出役したものには差額賃銀を與へ又耕作に用ゐる牛馬器具などをみな組合で購入し貯蓄に依らずみな協同でやる現に二十九日はその部落の共同田植で縣廳より活動寫眞班が来てこの光景を實寫した。この部落では個人所有などいふ田畠は一つもなく全くの共産村だ。聞くところに依れば近く共同作業場を新築して各戸の納屋を撤廃する。

すられた腹いせに
自分も拘る中學生
月二十三日夜堺市内阪神電
で學生風の男を警備員が取扱
ふと徳島中學四年生水田某
し月の親めに父親から旅費五
円を貰ひ學校を休んで太阪市
に來たが途中で廿三日入りの財布
を出し拘られた腹いせに
勇氣を出し拘られた腹いせに
に來たが途中で廿三日入りの財布
を出し拘られた腹いせに
布を出し拘られたので困つた
中の中の男から十四圓入りの財布
拘つて貰ひ自白した

十手物語

田村西男

一辰巳夜雨

其六

「何んでしたな」

「私はこれから古石場へ行つて今夜お座敷で貴方は野口正臣でなく、眞は金井良三郎といふ勤王黨といふことを聞きました。それに就いてお身が危うござりますから、木場に私の知邊があるに依つてと角其所へ一通りもない筈故」

幸ひちや

『目印は仲町の駕屋初音の看板閻魔堂橋を渡る前に、駕を一寸休める様にさせますから、それを合図になさいまし』

『委細は萬事承知した。固く頼んだぞ』

『拘らした事をする私、津田さ

ん何時迄も忘れず私を見捨て下さいますなよ』

『なんぞ見捨てよいものか』

『それなら一つ盃を下さり』

『あれ半分のんでそれを私に下さいといふのに』

『初めての戀のやうな眞似をするな』

『意地の悪い』

お辰はにつこりとして津田の顔を見た。津田は又薄ける様な眼でお辰の艶姿を見詰めて之ものにこりした。

雨は益々激しく降つてゐる。

六 閻魔堂橋の人通りは雨に途絶え一點の灯も無かつた。油壇は風強く波を打つて四邊は眞の暗下である。橋際の一本の柳、そこにしも十七字でなければ俳句でない

俳句を云ふものはない。

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ずそのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

られるものは、十七字詩形である。何人に見受けられる、併し必ず

そのもの性質を知らない人の

妄言であつて、決してそう云ふ

田村西男

其六

枝泰山

▼俳句を作る

人々へ△

▲俳句とは何んをせう

元蘇年間よりだんごと起つて一時隆盛を極め、其の間幾多の星霜と経て明治年代にいたり隆盛となつた俳句と云ふものは一体どんなものでせう。

兎に角一種の詩であることは何人も疑ひを挿まぬでせう、で

吾々の俳句として最も多く見掛

<div data-bbox="286 250 299 278"